

ント」紙を創刊し立憲主義を提唱。’48年政治家としてキャリアを積み始めた。その後、英国での見聞をもとに経済の知識と弁舌を生かし王国の大臣を歴任し、特に資本主義経済の人材育成を図った。イタリア半島諸国の鉄道史を紐解くと、周知の通りイタリア半島で最初に鉄道が出来たのは1839年10月フェルディナント2世が統治するナポリ・シチリア王国で、ナポリの王宮からナポリ湾沿いポルティチ(Portici)の宮殿まで約8kmで、次に1840年にはロンバルド・ヴェネト王国によるミラノからモンツァ間約13kmである。その後ミラノからヴェネチア間ができるがオーストリア支配の政治的な政策であった。

C・B・カヴールは1852年サルデーニャ国王ヴィットリオ・エマヌエレ2世の下で首相となる。そして1853年12月、カヴール首相の主導の下、活気あふれるジェノヴァ港と産業の中心地トリノ間約160kmに鉄道を開通させ経済発展の基礎を築いた。祝典にはカヴール首相が臨席し祝った。そして2か月後、国王が始発から終点まで乗車、開業を祝った。

外交での大きな成果は、クリミア戦争(1853~1856)参戦である。英、仏に与して1854年9月ロシア軍クリミア半島の要塞セヴァストポリ(Sivastopol)へピエモンテに駐屯している精鋭15,000人を派遣、1年がかりで、この要塞を陥落させ勝利した。世にいう「セヴァストポリ包囲戦」である。戦後、パリで講和会議が催され、戦争終結に大きく貢献したサルデーニャ王国、それを指揮したカヴール首相の外交手腕が国際的信望を勝ち得、発言権がヨーロッパでぐんと増した。彼はこのように政治、経済の諸改革を英国に見習い実行と共に断行、理詰めでサルデーニャ王国を一気にイタリア統一運動の中心とした。

オーストリア・ハプスブルグ家の重役たちは、イタリア半島の支配が終焉間近に迫っている予感を・・・感じたであろう。

1861年3月15日ヴェネチア(ヴェネト州)とローマを残し、イタリア新王国が誕生した。しかしその直後6月6日C・B・カヴール首相が急逝した為、イタリアの完全統一は10年遅れることとなる。

1866年10月ヴェネチア(ヴェネト州)イタリアに返還。

1870年9月普法戦争での「セダンの戦い」で、フランス軍は劣勢。ローマ・バチカンに駐留している自軍をも戦地へ派遣しなければならなかった。その為、ローマは完全に無防備となる。イタリア軍はそのすきを狙ってローマに進軍、無防備のローマを奪還した。そして教皇は孤立した。

1871年7月ローマを併合、イタリア王国はこれで完全統一し、イタリア国家が出来、首都をローマと決めた。

*炭焼党(カルボネリーア Carboneria)

およそ1806年ごろ、カラブリア州の山中で結成されたこの党は、反オーストリア、反封建制を旗印にイタリアの独立を目指した結社である。

この「イタリアの独立」という高い理念のもとに集まった人々は、下級官僚、青年将校、そして農、工、商の知識人たちであったが下層階級、一般市民の文盲に対処できず、啓蒙活動がなかった為組織として脆弱なものとなり、オーストリアの弾圧に屈したが、この党员の中にジュゼッペ・マッツイーニがいた。そしてこの党は再編され、1831年「青年イタリア」